日刊 動労千葉

動労千葉結成10周年！

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

89.9.13 No3083

全国に地域交流センターをつくろう

全国から460名が参加 闘う労働者の結集を 11・23全国集会へ

九・一〇反「連合」反統一労組懇全国労働者総決起集会は、日黒区中小企業センターにおいて開催され、闘う労組・労働者四六〇名が結集し、今秋総評解散「連合」発足に抗する歴史的衝撃的第一歩を跡した。

集会は開会挨拶の後、講演に入り、労働運動研究家・高島氏は労働運動の基本とは組織に依存するのではなく、一人一人の労働者が自立して闘うことであることを訴えられた。

闘いで統一を

続いて基調提起に立った全国労組交流センター佐藤代表は、「連合」とは権力が積極的に労働戦線を再編する統合であり、国家権力による再編であることを明確にした上で、「連合」そのものは戦略的には軽視しつつも、戦術的には重視しなければならない―侵略過程（ナチズム・天皇制ファシズム）を見るならば、単なる歴史的転換点と軽視できないことを表明した。

また、「要求で統一」を標榜する統一労組懇（全労連）や総評運動の継承を詩う全労協の運動では、真に帝国主義と対決できる労働運動の構築はでき得ないことは明らかであって、われわれは「闘いで統一」を目指し、その運動はセクト主義であってはならないことを言明した。

闘いの展開は、JR総連粉砕・清算事業団闘争勝利とあらゆる未組織労働者の結集体の構築を図ることであり、日本労働運動の戦国時代への突入を、一一・二三全国労働者総決起集会に交流センターとして総力を挙げて取り組み、全労働者の大結集で時代を創造することであると提起した。

歴史的第一歩を踏みだした全国交流センター

首切り撤回 原職奪還

特別報告では、今秋清算事業団決戦に向け、首切り撤回・原職奪還の労働運動の原則を貫く決意を国労東京の吉野氏が行い、地域交流センターとして初の関西交流センターの結成を入江代表が報告した。

各産別・地域労組発言では、教組・全逓・自治労・出版労連・広島連帯労組・全金本山・争議団連絡会議の方々から闘争報告を受けた。

11・23全国労働者総決起集会へ

まとめとして、動労千葉中野委員長が登壇し、運営委員八名を発表したあと、この二〇世紀最後の一〇年を、二一世紀を展望しつつ全力で前進する決意を表明し、戦後労働運動において一定のものであった労働運動の概念＝資本と闘うものという本質を根底からくつがえす方向への現実を直視しなければならないと訴え、現在焦点化している教育戦線と出版関係の再建と支援を強化し、一一・二三集会の組織化を今日を起点に築きあげることを全体化した。

六〇年代、七〇年代をどう闘ってきたのか！

全力で奮闘しようではないか、と結んだのである。

清算事業団団体署名
運動を全組合員の力でやりぬこう！

全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した１０年！